



### 6月富山県議会定例会一般質問

#### ごあいさつ

東日本大震災、また先の台風12号において被災された方々には、心からお見舞い申し上げます。被災地の早期復興は国家・国民挙げての急務であり、今後とも被災地支援を強力に進めてまいりたいと思います。

さて、皆さんの熱いご支援により富山県議会議員に初当選させていただき、早くも半年が過ぎようとしております。あらためて皆様のご厚情に感謝し御礼を申し上げます。

自民党県議会議員会に所属し、今日まで無我夢中で突っ走ってまいりました。おかげさまで、6月の県議会定例会本会議において、皆さまからお聞きした様々なご意見をもとに、初めての一般質問をさせていただきました。また、教育警務常任委員会の副委員長を拝命し、富山県教育委員会や富山県警察の所管に関する仕事を進めております。未来を担う子どもたちを健やかに育てる、また日本一安心で安全な富山県を創る、大変やりがいのある仕事だと感じております。

いま、富山県はもとより多くの地方自治体では、景気の低迷による財源不足、高齢化による医療や年金などの社会福祉制度の問題、少子化や子育て支援対策の遅れ、農林水産業をどう守り育てるかなど、様々な問題に直面しております。このことは国がしっかりとした政策を示し、法整備を進め財源を担保したうえで、地方自治体と協力しなければ解決できないものであります。まさに日本存続の危機だと感じております。

こんな時代だからこそ「いきいきとした地域社会、富山県、日本」を創るため、皆さんの声をしっかりと受け止め、政治活動に邁進してまいりたいと存じます。皆様のご健勝をお祈りするとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げご挨拶といたします。

富山県議会議員 藤井裕久

## 自民党県議会議員会 政調会福祉環境部会

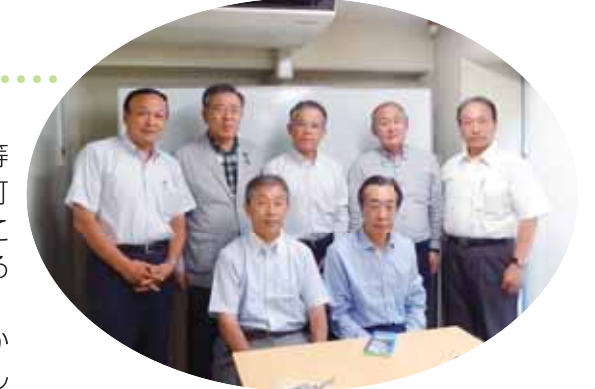
### 環境 自然エネルギーの活用

近年の地球温暖化や原子力発電所の放射性物質漏洩事故等の影響により、太陽光、風力、水力、地熱等に代表される再生可能な自然エネルギー発電への流れは、今後ますます加速することが考えられ、富山県の自然条件や地形、歴史や風土を考慮すると、小水力発電の実現性が高いと考えられます。

これからの自然エネルギーの実用化の可能性と、事業計画から資金調達、事業の利点や問題点などについて「おひさまエネルギーファンド株式会社」を調査し、実際に稼働している小水力発電施設として「小水力発電所「元気くん1号・2号」、都留市役所を調査してきました。



小水力発電所「元気くん1号・2号」、都留市役所を視察



おひさまエネルギーファンド株式会社を視察

「小水力発電所「元気くん1号・2号」、都留市役所を調査してきました。

自然エネルギー活用の実用化については、新規事業に対する資金調達、住民感情や水利権の問題等、法的整備や補助金などの行政協力が今後のポイントとなりそうです。

また小水力発電所については、単なる発電手段としてのみならず、環境教育や関連産業の促進・住民の参加など、地域活性化の一役を担う事業として捉えることができると考えられます。

### 福祉 リハビリテーション病院の活用と運営

富山県では遅れがちになっている回復期のリハビリテーション医療の調査のため「船橋市立リハビリテーション病院」を視察しました。この施設は、全国的にもめずらしい公設民営のリハビリテーション専門病院で、施設は従来の病院とは思えないくらい気軽に明るい雰囲気、スタッフも明るく元気のよい対応が目立ちました。地域に開かれた病院も意識し定期的にミニコンサートも開かれているとのことでした。

多様化するリハビリテーション医療の経営と運営において参考とすべきところがたくさんあると思われました。

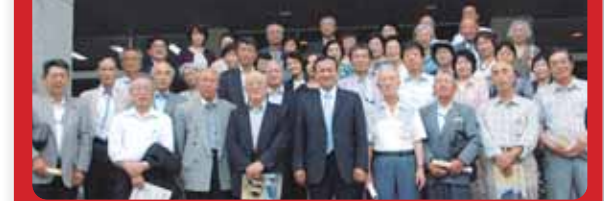


船橋市立リハビリテーション病院を視察

#### 県議会における所属委員会・部会・議員連盟・調査会等

- |   |  |
|---|--|
| <p>「県議会委員会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育警務常任委員会 副委員長</li> <li>●予算特別委員会 委員</li> <li>●景気・雇用・金融対策特別委員会 委員</li> </ul> <p>「部会・自民党」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉環境部会 副部会長</li> </ul> <p>「議員連盟・超党派」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日中友好議員連盟</li> <li>●日韓友好議員連盟</li> <li>●スポーツ振興議員連盟</li> <li>●山村振興議員連盟</li> <li>●砂防促進議員連盟</li> <li>●拉致議員連盟「救う会」</li> <li>●観光振興議員連盟</li> <li>●日台友好議員連盟</li> <li>●南米協会</li> </ul> | <p>「議員連盟・自民党」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日露友好議員連盟</li> <li>●自衛隊支援議員連盟</li> <li>●県東部地域産業活性化議員協議会</li> <li>●ボイスカウト議員連盟</li> <li>●オイスカ議員連盟</li> <li>●商工会議員連盟</li> </ul> <p>「自民党調査会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消防調査会</li> <li>●雇用問題調査会</li> <li>●医療問題調査会</li> <li>●農業問題調査会</li> <li>●業業問題調査会</li> <li>●都市問題調査会</li> <li>●私学教育調査会</li> <li>●水産問題調査会</li> <li>●並行在来線等問題調査会</li> <li>●危機管理防災調査会</li> <li>●がん対策推進条例検討プロジェクトチーム</li> </ul> |
|---|--|

本会議一般質問見学にいらした支援者の皆さんと



県政に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

【お知らせ】

藤井裕久後援会事務所におきまして東日本大震災の被災者への募金を行なったところ、総額54,643円が集まりました。支援者の皆様のご厚情に感謝いたします。なお募金については、日本赤十字社を通し震災義援金として送金させていただきます。

平成23年6月 富山県議会定例会一般質問



問1 中小企業に対する支援等について

(1) 東日本大震災の影響による県内中小企業等への支援と雇用対策について。

ア、震災の影響により、製造業を中心として県内経済も大きなダメージを受けたが、現状をどう認識しているのか。また、中小企業の資金繰りが厳しい中、どのように支援していくのかを問う。



東日本大震災被災地を視察

知事 震災の影響による、自粛ムードや消費マインドの冷え込みにより、地域経済にも大きな影響が出ていると認識している。こうした経済情勢に対して、県では「経済変動対策緊急融資」に「東日本大震災特別枠」を創設し対象条件を拡充するなどの中小企業の資金繰り支援を実施した。

また、国や関係省庁への支援要請や、震災の影響を受けている中小企業者への県制度融資枠の拡大、医薬品配置販売業者への事業継続支援、夏の観光シーズンに対する海外での観光プロモーションの実施などを盛り込んだ。

イ、県内における雇用情勢や新規卒業者の就職環境は予断を許さない状況にあるが、現状を踏まえて今後どのように取り組むのかを問う。

商工労働部長 有効求人倍率が新規求人減少により低下、雇用調整助成金の対象者も増加の傾向にある。県では基金事業による雇用創出に積極的に取り組むとともに、離職者対策として民間委託訓練枠を拡大するなどの対策を行う。また、新規卒業者のための「県内企業人材養成モデル事業」の拡大、雇用のミスマッチの解消への取り組みや経済団体への求人確保の要請などを積極的に行っている。

(2) ものづくり人材を育成するため、職業訓練を充実し積極的な就職支援をするべきだと考えるが、今後の取り組みを問う。

商工労働部長 富山職業能力開発センターとの連携により、離職者や在職者に対して職業訓練の強化充実を努めている。また、「とやま技能継承塾」や「若手技能者やる気塾」、「熟練技能者出前講座」や「テクニカル・エンジニア育成塾」などの技術人材育成事業を積極的に展開する。



「14歳の挑戦」を受入れる事業所

(3) 将来を見据えた産業育成について、新たな成長分野に挑戦する県内企業に対する支援や、県外企業

に対する積極的な誘致に対する取り組みを問う。

環境問題についても積極的に取り組むべきと考えるが、所見と今後の取り組みを問う。

ウ、子ども達が、心と体を健康的に育むために「いのちの教育」が必要だと考えるが、所見と今後の取り組みを問う。

問3 県民の防災・防犯意識の高揚について

(1) 新築される富山県消防学校・防災拠点施設の整備にあたり、消防職員や団員のレベルアップはもとより、広く県民に開かれた施設として、県民の防災意識の高揚と防災教育の場としての積極的活用をすべきであるが、所見を問う。

知事 本施設は消防職員・消防団員の育成の場であるとともに、地域防災を担う自主防災組織等の学習・訓練の場、また広く県民に開かれた防災意識の高揚と防災教育・訓練の場として、来年4月のオープンを目指して整備を進めている。四季毎の特徴的な防災体験ができる体験型学習施設や、山岳救助訓練、水難救助訓練、高所での消火・救助訓練などの設備も充実している。



新保地内に建設中の消防学校

(2) 頻発する空き巣や自転車盗難は重大犯罪に繋がりがかねないが、日本二安心で安全な富山県を目指して県民の防犯意識を高揚させる等、県警察の今後の取り組みを問う。

知事 本施設は消防職員・消防団員の育成の場であるとともに、地域防災を担う自主防災組織等の学習・訓練の場、また広く県民に開かれた防災意識の高揚と防災教育・訓練の場として、来年4月のオープンを目指して整備を進めている。四季毎の特徴的な防災体験ができる体験型学習施設や、山岳救助訓練、水難救助訓練、高所での消火・救助訓練などの設備も充実している。



改修を終えた赤江川(上吉川地区)

土木部長 富山県は、下流の井田川との合流点から整備を進め、坪野川との合流点の手前約100Mまでの整備を終え、現在引き続き上流に向けての整備を進めている。また、枝川の坪野川との合流点付近は、これまでにJR西日本などと協議を重ね、調査・設計を進めており、今年度から一部護岸整備に着手する。さらに、富山市との連携により学校グラウンド地下に雨水貯留施設の整備をしたところである。山田川については、昨年度から優先整備箇所として検討しており、今年度は工事着手に向けた測量や調査を実施する。峠川については、JR高山線の橋梁前後区間を除き、下流の赤江川との合流点から約500Mの改修を



イタイイタイ病資料館が入る富山国際健康プラザ

問4 婦負地区における諸問題について

(1) 婦負地区における豪雨対策について。

ア、「神通川左岸圏域河川整備計画」に基づく、山田川・宮島川・坪野川・峠川の整備状況と今後の改修見込みについて問う。

警察本部長 本県では、カギをかけていないために盗難被害にあっていないため、平均を大きく上回っている。本年も6月から9月までの期間に「カギかけキャラバン」や「カギかけ防犯コンテスト」を行い、カギかけの啓蒙に努力する。また、昨年からホームページに「犯罪発生マップ」を掲載するなど情報提供の充実を図っている。

農林水産部長 今日までの経緯を考慮し重点的に予算配分に努めた結果、全延長三二八二〇Mのうち、前年度までに二〇七七M(85%)の改修をした。今年度は、残りの河川改修と付帯する橋梁工事を行い、計画通り事業を完了する予定。

(1) 「社会に学ぶ14歳の挑戦」について、12年が経過した現在の評価と今後の取り組みを問う。

教育長 5日間の体験が、子どもたちの自信や将来への夢・希望につながり、健全な職業観や感謝の心、思いやりの心などの社会性の育成に大きな成果を上げている。一方、受け入れ事業所の確保が問題になっている。県の各部署に対しても生徒の受け入れを要請するなど、学校の取り組みを支援している。市町村教育委員会とも連携して、この事業が長く続くよう努力していく。

(2) 学校現場における「ふるさと教育」と「いのちの教育」について。

ア、ふるさと自然、文化、歴史、産業などに関する理解を深め、ふるさとへの愛情と誇りを育む教育は大切であると考え、現状認識と今後の取り組みを問う。

知事 昨年5月に「ふるさと教育推進協議会」を設置し、未来を担う子どもたちをはじめ、地域や企業を含めた県民総参加で、ふるさとの自然、風土、歴史、文化、産業に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇りを育む「ふるさと教育」に取り組んでいく。

厚生部長 資料館整備・運営検討会議の開催や、県内小中学校へのアンケートなど、利用者のニーズを把握しつつ、管理運営や事業内容を検討してきた。施設運営は指定管理者制度を導入する予定。貴重な関係資料の継承、教育啓蒙、国内外に向けた情報発信を柱とし、また、イタイイタイ病の体験「語り部」を養成している。